KODAK Color Control Patches
Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black
A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

14
3749
1

3749
1

2F102

桐壺
帚木
空蟬
夕顔
若紫
末摘花
紅葉賀
花宴
葵
賢木
花散里
須磨
明石
澪標
蓬生
関屋
絵合
松風
薄雲
朝顔
少女
玉鬘
初音
胡蝶
蛍
常夏
篝火
野分
行幸
藤袴
真木柱
梅枝
藤裏葉
若菜上
若菜下
柏木
横笛
鈴虫
夕霧
御法
幻
雲隠
匂宮
紅梅
竹河
橋姫
椎本
総角
早蕨
宿木
東屋
浮舟
蜻蛉
手習
夢浮橋

あまてらすの御世を篇ぜけまくとうしてこそやまと
ことふみのみちをさだまへるよ。太師あり沢師あり。
ちうの御ときに。前集後集作り。行文精と潤
の本末をば。書編られたりぞ。ありてそ升よた
くとびゆくとぞりそめまとめふみ。沢乃
石亀の翅にそ。書いそうれ乃及くさ。なと
きこめ。せめて唯。そ乃撰よ結抜あるとのこそ
ろうるろ。仮そこよまるひとり。荘年の比の唐成
累大関乃めくたさとあ。ごをもろと法陽のそ
つとの祈ちに行ちに書乃ちわさうまん。書よ

鯀京こうぐ屋と毛ぜ〜ぢよ栗と人よりて、
先〜れ棒よ釣ひ今るにんよこらふわをあるに絵
て若おるに花ちうるかてあをーと又ひこうら
の絵とうこひ事と宮ておことひとんつけ絵
三実よ大ろ前毛そうひ仕りすでよ人判鯀民
ろもに物ら作りんと鯀ーとれ田全ひてこ元
して笑乃底とおめまきよふとうひぞふぞ中
と鯀ガ初ど也今ちこうりふ書とすむるのろ
嘴呼どりとうあこ若ようなうはとと耳乃お
ふこうりあーはうとたびうこ稲ぐ。生のうこ

ぬうふこうこうこれハぞうあこれひのこうこあ滅よ
山ふ乃ハりとこうこ。ぞこび猫魚と松
ひくゆうう作ふぞまこにこで毛の年ハ成乃尾
とうふこまりふぞこ。ぞひりの活毛ろと茶沢覚
又七下の羊乃ろ魚よ棺とうこ毛んこれうか
けふ。ぞうこ魚とこうこふゆ。ぞよ師毛こうこの
命ふれ

中川書雲 撰

遍照第一

仙洞の御池

乃ふりにきうくしてやどをもそこなわたりん時のそあ
しらやゝ姑射山乃うさくよ。安古世がえ池とうのうふ
ゝ。伏乃夏いうるの旱魃しと清水のかつぐとあり。
乃ハゆ。たてふまとそのあをといくうとうるかさよ
あしぐそれ積雪くふ。玉泉とうぐいさうれを
孫竜乃蟻ところとうぐ地ちまぐ孫うあれ乃
ゝ乃ゝ玉よハ志ゝあゝ蓬萊ゝとうくゝかつりあゝ
ゝすゝひようゝ花のゝとうゝゝとゝしてよ
いのゝ山ゝの神ゝよゝ寒の洞ゝうゝひゝゝ

梅と松やうたてんハ洞のゝ住古伝

八洲のゝ初まで。そもやうたてんたけさきはめくこと。松竹くこと山の
ぶりとを。ちげさ清代よりひかれ。ひとすゝ。俗語すてゝ。ものこと。ひとえ
ましてくこと。ものこと。ゝ。ゝ。神の
花ゝ。ゝ。ゝ。

清荒神

山城の国八幡清荒神

て。天竺のりやうしゆ。ちかくよあまし。どこまつと。

海内ふ清所とつふあつ。これつあ〳〵あくあ〳〵

ふ。さて本地ハ十一面観世音菩薩

たまり。門よこ宰相毎年天長地久門あり

山城の国八幡清荒神

ハ加茂ゆうとしきくうう

ゆうとも史箱のふ新ありとそう

大仏通場

寺号を開基として、金堂三間四方の堂、八宗兼学の所也。西の町、東の町、南の町、北の町、四町の内、一遍上人乃至、一遍上人乃至、一遍上人乃至

きと移ごうんや。金あるゝ。ぶゝ拾ゑ。あゝ。ぶゝ
て。ぶゝ。ぶゝ。合掌。ぶゝ。ぶゝ。ぶゝ

ものこしらへぞうふうりゅうのかこまでとゝろ
とゆうんぞうくをあらふ白雪一まい五でゝつもゝ
ちらとやきまそをとろふまゝ三の町の家あうぞえこ
とゝまれどもうしぐ。ぼかりてうとまをあ色へ
きえ

妙傳寺

南寺開基日高上人ハ天竺ノ人ニテ三大部ノ円教経ノ正ノ行者ニ付テ其ノ法華経延山ノ日祐上人ニ受テ彦子ノ傳ノ法華経ヲ日祐上人ニ授ケ給フ日祐上人ハ日蓮聖人ノ十二代目ニ当ル

又日朝上人ハ上総国ノ山家自ノ男女甲州ノ者ニ付テ法華経ノ門ノ為メニ身ヲ捨テ法華経ヲ建立アラセラレタルカ

此ノ法華山妙傳寺ハ西国巡礼ノ

三十三所巡礼ノ内ノ第八ノ札所ニ成リ

上総国ノ山家ノ内ノ安房ノ郡ノ内ノ丹所ノ郡ノ内ノ

日蓮上人ノ代ニ南ノ方ニ

ヒガシ山ノ新ノ

寺ト称シテ

ヒガシ山ノ新ノ

寺ニ

日蓮聖人ノ弟子

ヒガシ山ノ新ノ

寺ト

ヒガシ山ノ新ノ

寺ト

ヒガシ山ノ新ノ

寺ト

きづかれてよまことの天満宮の神明
宮ぶれば西ぶりの丁蘭父母乃真像を希代
乃事ありしが栄まことの孝心のあらわれ
そのかたちのあり列聖八幡宮と仰られ
法信録に移し奉り屋敷まこと勅宣ありぬ
ようそれ以ありとあるものの地ぶりその地よその性
のそなわる事わり幸あり綱目よ東坡志とあるに
字乃ことく集よ向ら移せのまこと伏羲肝と云ハ竜
はたのまことれハ同ちと拾ひ紙書わり
楚たハ乳事集伏羲肝ハ幸拾遺ぶそれ
はたの乃ちそ里ハ栄ありや其三長事紀

御一殿八幡

南社八幡宮の地也ところよし源の名
氏公磨益三年よりの奥ありそれより御所
八幡宮ありの名氏とさしてほとりとの大名
ちとも号とも氏東とも治乃門立家うり建
武二年南社八幡宮の宮殿をい
一日の大社ニケ所建立あるうちの外社殿
ひとしくもとひしきを白鳥ちうを絵とうと
神りとびうるめぐたさ稲荷りとうとぐせ
みもひ名仕事をとりうばしゆりくて敬儀仕
うりうと建立社中杉の五天一日ふとケ所

八幡宮ありのうとこと乃表を仕て南社を始乃寺を
号号りの文字寺ありそれよりて号氏公
北乃号とも号杉院義とも社九所修繕
春日 祇園 小野 稲荷 白原神 武氏神
新宮 熊田 ゆのへけいでい田所宮とて社八
椿紙りよ一三の名井中ぐたりとて東よ本花
蒙ありの名所ともむとハりうと名花とて海
まいたりの名絵乃八絵ふまりふ
八まんのうりまれくや月乃弓

頂妙寺

當寺八仁皇百三代後花園院の御宇寛正元庚申年日祝聖人御創後柏原院永正十癸酉年十月廿二日寂と壽八十七歳世八十あまる老にけるを命ながらへてなほ邪宗惡鬼の有りけるを合ぞらへて法華經を唱へ邪宗惡鬼の中山法華經を唱へると。妙國寺の中山法華經を唱へると。妙國寺の開山日親聖人長享二戊申年九月十七日寂と。壽六十七年法華經を唱へ八十二

あさくの法と号し奉るこの日はいよいよ法れん
一ゑ雲の南面也ゑづく頂めもとゝ
ゑづく行うち
ゑづくゝ也とおろうとは寺法湯より行者を
筆道師匠の能書をうしろ元の俗の方なる
みちゑづくゝ法ちゑは開祭所ゑ寺初生那その
例行事元宗祥地ゑ行ゑ行ゑ額の方
き雲うろゆゝうゝ
ゆゝとまりまつ元
一三十番神雲 并 祥殿あり
一東面より十羅刹雲あり行数大師の祖の大ゑ
一西面より 星宿新雲あり開基日祝の像ゑ

一二王門より八東八拍図面西八異海門西呼ゑ修安西
祭乃祖あり。むゝ八和尚和尚図ゑ会ゑあうゝと
三世日祝聖人美乃つげ小ゑ山ちゑふゝ
ち和のまゝある時乃灯面とうげ行ゑ
ろくゝまゝ西ゑまゝ。稚さ筆にいでくはあうゝ
き。そ乃ちゑゝゑ乃ゑとゑくゝもゑ行ゑ又弟子とたゝ
ゑり祖りて和人ゝけあうゝいうゑまゝそゝ
一寺寺門乃稚名拍也法行なゝゝゑゝゝ行風
ゑゝちゑもぐゝまゝちゑ。ゝゝゝて稚和行ゑゑ
印奥
あちゑひを法華と志ゑを寺乃

清華潟藻乃とは酸醎味あるとの人事をと
けく〳〵ぞうたぐうまうけ行ぞあるうん〳〵しき年ぬぎと
うひとなりしおぞ今山形あ年光の魚は菓子ひあろ
う。清く芸くぞ乃あ〳〵たようとぞ乃けきぞ
きふく〳〵きぞなうきふかゆうあとぞ行きを務の
麹稀ぞふうやとぞ人ぞ腸うとぞしびあう
ぞうく〳〵あやはとうとは菓子一斧
一猪鳴ぞ猪乃ぞ芋猪鍋也稀津ぞ天ぞうぞ云風ぞ
のあは猪の者〳〵同但宝ぞ異ぞよぞうびてかうう
きんだ行ぞ人耳底はたゆ〳〵あんう節の
ぞ産ハ芋鳴者ぞと
ぞうてそのまく摘摘ぞ人をと

鰹ぞ鰹ぞあうとぞ世ぞ人ぞ鳥務同ぞ人ぞひてぞ
と数ぞ中あうぞ人ぞ鳥あ乃事ぞ云活長
ハ崖乃ぞ忘ぞ〳〵ぞ人ぞうぞ中あうぞ
一本崖乃あり骨崖とやらんうのひくこれあうぞ骨米鰹
たとは忘あぐたりふハぞうぞ但毎令ハ人をぬちさ
ふ高なぐを行ぞもうぞあうぞそ人ぞうをいそとぞひ
出行ぞふ中あう高乃ぞ行ぞうぞ人ぞとうとぞひまぞうぞ中
正ぞ高ぞうにて海鰹ぞそ乃毒うまんのうぞう
そこ猪ぞうと知ぞ猪ずこ此ぞ中ぞ二ぞうぞにやさぬ
けうぞふぞぐぞうりあうぞ中ぞ乃ぞ人ぞ高ぞ
ぞ人ぞ〳〵ぞうの鬚ぞ者ぞ行ぞそ乃人ぞ人ぞし

まゐりぶつしく八ちるふさぶぶちく山一ケ名あり
八郎背郡髮乃事さぐさきてぐんよふんれあるい
らるさ茅ぶ社乃らうるめ作らあつさてぶよ
事あり後世弘ぐりんてそえんよらまさきみらん
り利ぶの拝参社乃うまくなるゆあんぶ

六角堂

寄進の願主は、[illegible]の人、[illegible]観音一体
[illegible]の金銅の[illegible]。聖徳太子の海の渡
て、[illegible]の邑の渡よりたぐりひきとりくぴ
らさんてまへ八尺ばかり輪あり。すかつらはる俵
[illegible]て、身とんかちたまりたる霊字を
かきへて、[illegible]俵と安堂をかんとわぎ[illegible]
[illegible]。老姫乃をしへふるとて、移乃霊樹とりよ
たかうひ用来りて、一堂をたてせ[illegible]
俵をもとめ[illegible]。[illegible]六稜あり。方治二年[illegible]
開帳あり。たぐまさせる[illegible]。弘法大師の作

しとたつのうらふるる俵まうゆ[illegible]
七夕ゆり[illegible]作るあと

六角や花さく[illegible]もきうてん

一毎年[illegible]の祇園[illegible]山鉾の[illegible]
あり。[illegible]七日乃八六日の朝。十四日のいけ三日の
[illegible]雑織[illegible]。山鉾[illegible]
つ[illegible]月[illegible]園を[illegible]
[illegible]。[illegible]百神事の[illegible]
[illegible]

一毎年一二八月[illegible]の[illegible]
[illegible]あり

一[illegible]子堂あり

霧島の神明

霧島の神明山ハ、そのかみ、ゑびすの宮ありて、そこの宮をとりこわるに、ゑびす十九年、甲寅の年、九月朔日、霧島の社の方角、ゑびすの宮をとりこわるに、伊勢太神宮をうつし申せ、社の方角、ゑびすの宮をとりこわるに、伊勢太神宮をうつし申せ、社の方角、ゑびすの宮をとりこわるに、伊勢太神宮をうつし申せ、社の方角、ゑびすの宮をとりこわるに、伊勢太神宮をうつし申せ、社の方角、ゑびすの宮をとりこわるに、伊勢太神宮をうつし申せ、社の方角、ゑびすの宮をとりこわるに、伊勢太神宮をうつし申せ、社の方角、ゑびすの宮をとりこわるに、伊勢太神宮をうつ

山うて。方角ぶつりうあさゆへ色りくちろ
ゆふ。滝之岩穴あわさうにら海ゲ滝とい
海をあり。赤結り八幡えびそ原法華のつけ
あり

えひすがやか祇園山の貴草

安祥寺

伊勢物語に、むかし男ありけり。むさし野はいとはるかなりけり。そこなる草木、みな、人の上とのみ、なんなんとかなしうぞ乃う男たまひてあるべきうてみるべき

うとあるべし。かなしき歌ども也。雨雲雲雨雲雨雨雨

同明神

[illegible]

[illegible]

[illegible]

三井寺

山号ハ園城寺ありて天智天皇天武天皇。持統天皇三代乃帝御誕生のゆゑ御産湯の霊乃井あるゆへ井ちゝ号ともいふ。ほとりあるたゆゑ三井ともいふ。元祝ハ義淵ありて二代智証大師ハ渡唐しさまひて仏法をつたへ給ふ。惣はとうけ初て珍朝ありしあり。寛平年十月廿九日ようやく成就。勅命の名ハ勅願寺と智証大師とたまりる也。当ちゝよ詩仏ようしたりし物語あり。祇園精舎のうしろ北すこしたりたなり。

志ろがねの水乃流れ山陰のもにたまつる露ち
とゝ〳〵ふるもそぞろもれぬるあるよ白鷺乃
うれを踏ぶるゝ花ごろもぬれもとゞ袖いとあ
ひりとゞくれこゝ忘いでまぶ〳〵今よりてう
はるゝ乃至寒まり

見てうるよ鶯乃花の風

智積院

寺号根来寺とも用山号後ハ人ハ多百余
言ハて初号の案今皆とひろ紀年とあの先て
てらづ〻ゑ猿ハ人雅楽主真福寺智積院織
一夕倚春日明神霊験寺高野一
受得ハ説法ハ文元亨釈書ハつま
ひ〻ゑ猿ハ人の家と紀ハ根来ハ
乃物とたて根来ハ智積院ハ根来
の号ハ根来ハ智積院と
陽ひ〻ゑ猿ハ一寺ハ猿ハ
南花ハ根来ハ相承ハ

樹ハ命ハ智積院ハ
とと住ハ

窓ハ智も桜やたまを雪

寶塔寺

深草山の西麓にあり。高さ十丈餘にして、極楽寺と号す。今を村の名と称す。極楽寺村とつゞけり。

仁明天皇御宇、小野の篁、閻魔王の命を受けて、冥界に行くとて、その印として、この寺の塔を建立あり。されど、閻魔王の宮殿ありしとの言伝たまひしとぞ。

樂寺といひ、今の寶塔寺とひらめたまひしとぞ。

中比、洛日修堂の僧、法華経を誦して、日修と云ふ。角ふく日修と云ふ。極楽寺の傍らに住まひ、滝華坊と云ひしとぞ。

又荷川の事竹に ふうとあり 何ぞ哉 ようとあり
せらるゝ 方角を列 ようとあり 考べし
一清潔 ようとあり 日傳 ようとあり 金打 ようとあり 光 ようとあり 紙
立ふ 寒 ようとあり ゆ ようとあり
一日傳 ようとあり 法乃 ようとあり 在 ようとあり

うもや柳乃ひとに契乃瓜

浄土宗

當宗ハ専ら稱名念佛を修し給ふ。
法然上人乃つたへ給ふ所也。
たとへ一ぺん念佛乃功德無量
佛。躍念仏六奇。称名念佛。稱和念佛。
別時念佛。臨終念佛。
乃内。
専ら念佛を修し給ふ。
往生極楽乃ためにハ。
かくて乃流れ。
第八伊勢乃ゝ海藻たる人。
佛法乃ありさま。
行ひ給ふ。

海藻なくしてなりがたく
そもく念佛乃功德
りあづり。西方十万億
しをりぶして極楽
たまへるありがたや。
記し念佛をば
往ハ京に生
法唯称弥陀佛生極楽

月も
ひとつ
あらた。

とつゝ詠し独うん歌集し作りたつまつり仏像のま
ゝひすやきんて詠と見んの人はいとくれは年まぐるまり
へくさちぐれくしゆうこそ世ゝうこそ
めりがうそひ風ふてまうでこそかう
花の紅やあくるを意の世めを絵師
せんくあるぐよ所まづまんいとろうあり。拾玉集歌
のたつふまこ。ぞんくまほまふるまこ。宝船の輪田ハ
一心の秘んとたこうく。生死の宰嶽やぐりくこ
いふ〳〵の方ゝう
ようさめ見くあ山縁へつゝ弁ゝう色
にふんくようかくこ。なりくれ

それ聖人の徳ハ理科の蔵院尼と行ふとゝり。
天竺の法師尼ともぞ。そもの人はくとも和尚の三年二
字の詠又あり。阿闍梨ハ桃源ゝ漢尼
世寿寿ゝ阿ハ世寿の蔵敬あの嬉ゝ法ハ敬。
倭の蔵解脱の徳也院ハ寿中道の蔵法寿寿
任ゝ寿命ゝ文那晋の恵遠法師ハ廬山ま
白蓮社ゝ社ゝ。ゝ。ゝ山中廬家ゝ。ゝ一向
ゝ生極乗の約束絶ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
ゝ要集ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ
たゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

はるかに人の作りたまふ物
みんなふもとやさいとゆくいめ一度の
白ひやうしきへ行けとはて
陸地のあたにてこそ高根の雲にさへられて胸
の月ひとりとあくりしかこと
ちとなるまて海にはいくて行もしんやあり
うるすまやふ塩ごくよ物ちとやらんく
いろりの獄卒小ひ人ひいろりの苦とくうけんを
主ぞうくの教ぬ。笞を活呼喚焦熱阿鼻地獄
行うれわり。鐵毛畜生海龍王
ちあくくうりみくやくくい蓋に欲とくしくるまに伝

人とへよちくひめ祝詞とくげまし。ゐるし楽
の果とりもしくりそめを忘とあせば忘よしくひ
著とたとうへ著とうこと。くこちよ新のうり。弦
うすくことあるりたげとくし。新著選忘の事とうた
主ぞ。主ぞ此さたりみんをとうべ。暑の軽浮よ
く。日はたに八月末つ。暑ゆくたに八寒を水山犯
とたくし。著忘の水まあわうとうまちべ。
幸心の神昊と昏蔽。生ふくはくくよべらんを
うこ海ぐくはひくくたにあいるあしもちくの果大地
幸象入ぐくう猫うあげうて。愛忘と住初の葉
海も海懐し。安東国よ生れんとと称うひ。一函

乃今佛一つぶり一粒の柿乃大木となるうゝ
紙注乃鱗とうゝふを。聲よへて千歳の庵なる
ぞし。ふをよわりしくを一ふちりぞまぞそ乃心
ぢを乃ゝまに酒うふまあくぷんぐ乃ぐさまう。
人をやしあ乃物もにるを人へとろをめをはら入
あり。源氏物語より。ねるとゆへ
つゝてぞふひさつまん乃方便也文欲とのゝ丸愛
見ハあやまるとるぐし。男ハ乾坤とゝぐ九注陽
男女乃まゝとゝるをり人倫乃ゝてまをハ夫婦なを
ばゝてうふゝあ乃ゝありぞこれ演するは人倫とゝぐる
ゝとゝいゝ乃ゝとゝゝ乃也。ゝ乃の極ゝを孫ふ

よゝ孫と酒ゝとゝるは浄ゝとゝのゝ乃ハ欲とゝるあを
ゝめんのゝりゝを也禅ゝ孫ゝはゝん病つぐゝるはゝん業
云ゝ会ゝさゝゝぐゝるゝを用ゝよゝゝひ孫ゝ毛流ゝふゝ月
とゝを也ゝ夏初泡新り命をゝへぐゝるあゝさまゝと新し。
ゝゝゝあゝまをゝりあゝり刹那もあゝぐゝゝを生須
実も佛ゝゝゝ明ゝまゝ行ゝゝん八行乃仇ぞや酒
云ゝ酒陀佛乃云ゝよゝゝて耶耳鼻舌
身云の業ゝよゝぶゝめゝゝ会ゝの仏ゝぐゝりのゝさ
だめゝゝをゝ法ゝんゝおりふゝ和乃ゝ名ゝゝゝゝとゝ
一身ゝ物云ゝゝゝゝゝ人ゝ云ゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]